

NEW SOPHIA

ニュー ソフィア



理事長・大学長 年頭挨拶／青野常務理事叙勲	2
福岡歯科学園の中期構想(改訂)	3
北村教授学長就任／本田前学長が常務理事に／石川病院長が理事に	4
【文科省:大学教育改革支援事業】	
「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」	5
「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」	6
「介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」	6
健康まるごと福岡歯科学園／3大学合同シンポジウム開催	7
FD研修会報告／新任准教授紹介／短大、東釜山大学訪問	8
同窓会だより／中国ブロック学術講演会、30周年記念行事ほか	9
クリニックからこんにちは	10
保護者からのメッセージ／福岡歯科大学学友会総務委員長決定ほか	11
平成21年度入試日程／福岡歯科大学特待生、福岡医療短期大学特別奨学生 福岡歯科大学・福岡医療短期大学の特長と魅力	12

福岡歯科学園ホームページも
ご覧ください。

<http://www.fdcnet.ac.jp>

理事長・大学長 年頭挨拶

平成21年1月5日に講堂において行われた年頭挨拶で、田中理事長、本田学長からそれぞれ次のとおり挨拶がありました。



平成21年の 重点目標

理事長
田中 健藏

新年明けましておめでとうございます。

世の中の動きは大変に激しく、多くの困難な課題が提起されています。私共は、そのような社会環境のなかで、歯科学園としての使命を認識し、建学の精神を忘れず、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思っております。

新春を迎え、次の項目を今年の重点目標として、皆さんと共に努力したいと考えています。

第一に、「口腔医学(口腔科)」の学問体系の確立に向けて、社会、学界、医療界の理解と協力を得よう努力しましょう。「患者中心の医療」の「知の統合」として「口腔医学(口腔科)」を確立し、医療の一専門分野として「医歯一元化」を実現することは、社会的要請の特に高い医療系分野の人材育成の在り方に係る基本的課題であると思っております。

第二に、教育面では、「戦略的大学連携支援事業(「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」)」を推進し、口腔医学(口腔科)の医療人養成のためのカリキュラムを構成・実施して下さい。また、きめ細かな履修指導や進路相談等の学生支援充実に取り組んでいただき

たい。国家試験対策等を充実し、歯科医師国家試験合格率の上位定着及び歯科衛生士試験合格率100%を目指しましょう。

第三に、研究面では、文科省助成の先端科学研究センターの活用等による大学院の研究指導体制の充実を図り、学部卒業生の進学促進及び社会人再教育の受け入れ促進のため魅力ある大学院を展開しましょう。

第四に、医科歯科総合病院は、総合医療センターとしての拡充を目指し、診療責任体制の確立とともに、病院情報システムを充実し患者増を図ることが重要と思っております。介護老人保健施設、介護老人福祉施設は、地域の保健福祉に貢献するとともに、教育研究の場として機能するよう努力し、介護職員等の処遇改善に努めたいと思っております。

第五に、本館・病院棟は耐震性の確保等の観点から、改修・改築等を検討します。また、地球温暖化対策として、エネルギー使用の合理化に努めたいと思っております。

最後に、第六として、学園の活性化を図るため、人事考課制度を充実し、処遇に適正に反映させるとともに、教職員の資質向上のため、各種研修等の充実・強化を図りたいと思っております。

今年もひきつづき、法人、教職員が一体となって、厳しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、明るく楽しい学園を作り、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校を目指したいと思っております。

本田武司学長には、2期6年間、大学発展のために多大の御盡力をいただいたことに心から敬意と感謝の念を表します。2月からの北村憲司学長新体制のもとでの皆様の御精進を心から期待します。

今年が皆様にとって良い年でありますように、重ねて心から念じて、新年の挨拶と致します。



目標達成へ、 一致協力を

福岡歯科大学長
本田 武司

新年明けましておめでとうございます。皆様方には大変良いお正月をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

今年は、昨年アメリカで起こったサブプライムによる世界的な大不況の中で、我が国では歯科界を含めた医療界全体の環境と共に、福祉における環境も悪化し、中でも、歯学部受験生が激減するという、私共にとりましては大変ショッキングな年になりました。しかし、理事長先生から21年の重点項目として、教育、研究、臨床、地域貢献などの分野で口腔医学を基本にした学園の今後の方向性が示された中には、現在の大変厳しい状況への対応も含まれております。福岡歯科学園の一員である私たちは、この重点項目を基に、今後の計画あるいは目標を設定し、その実現に向けて全員で一致協力しながら努力をしていきたいと思っております。

私事になりますが、私はこの1月一杯をもちまして6年間の任期満了にて学長職を退任することになりました。アツと言う間の6年間で、何ら実績らしいものを残すことはできませんでしたが、大過なく6年間の学長職を全う出来たことは、偏に理事長先生をはじめ、皆様方の温かいご指導・ご鞭撻・ご支援のおかげであると、心から深く感謝申し上げます。2月からは北村憲司教授が新学長としてその任に当たることになりましたので、全員で北村新体制を支え、大学ひいては学園発展のためにご尽力頂くようお願い致します。

私は2月から大学の教育・研究・診療を担当する常務理事を拝命することになりましたが、これまでに学長職をはじめ、いろいろな役職を経験させて頂いたことに感謝し、その経験を踏まえて21年の重点項目を基にした計画を実現させ、学園発展のために努力をしたいと思っています。

特に、歯学部に限らず医療短大も併せた受験生確保、そして国家試験成績の向上と上位安定とを喫緊の課題と捉え、出来ることには早急に取り組んで早期実現を目指して努力していきたいと思っています。

今後は、予測のつかない大変厳しい状況が続いていくのではないかとありますが、このような時期だからこそ、全員で協力しながら重点項目を基にした目標達成のために努力が必要ではないかと思っておりますので、ぜひ皆様方の協力をお願いして年頭のご挨拶に代えさせていただきます。

青野常務理事に、瑞宝中綬章

青野一哉常務理事(元福岡歯科大学学長)は、平成20年11月3日付で、長年の教育・研究への功勞により、平成20年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。

また、田中健藏理事長らが発起人となって、受章を祝う祝賀会が12月23日、ホテルニューオータニ博多で開催されました。祝賀会には、

多数の方が出席され、青野常務理事のこれまでの功績と晴れの受章をたたえました。

青野一哉 常務理事 略歴

昭和53年4月福岡歯科大学教授に就任、平成8年5月福岡歯科学園理事、平成9年2月から6年間福岡歯科大学学長を務められ、平成15年2月から福岡歯科学園常務理事(現在に至る)。



田中理事長からお祝いの言葉をうける青野常務理事ご夫妻

福岡歯科学園の中期構想（改訂）

平成12年8月に発表した「新世紀へ向けての将来構想」を踏まえ、平成16年5月に「学園の中期構想（平成16年度から平成21年度）」（平成17年8月改訂）を策定し、その実現に向け教職員一丸となって取り組み、平成18年度に大学基準協会及び日本高等教育評価機構、平成19年度に短期大学基準協会及び日本医療機能評価機構などから高い評価を得ることができました。

平成20年8月より、学園役員が新しい任期を迎えるにあたり、改訂中期構想を再検討して、今後3年間の数値目標等を含めた改訂を行い、教職員が一致協力して、その実現に努力することとしました。

1. 口腔医学の確立

口腔医学としての学問体系の確立について、学界、医療界の理解、協力を得るとともに、平成21年度末までに大学名等を変更するよう努力する。

2. 教員組織の改組等

講座制を再検討し、教員等の重点的配置を行う。

3. 教育の改善等

- 1) 歯科医師国家試験対策、共用試験対策を充実する。平成21年度までに歯科医師国家試験合格率の上位定着を目指す。
- 2) 教員の教育に対する意識変革を行い、教育カリキュラムおよび施設・設備の改善を行う。実習重視型教育、チュートリアル教育を目指す。
- 3) 口腔医学にもとづいた医療人育成のためのカリキュラムを実施する。
- 4) 態度教育を重視し、「特色ある教育」のためのカリキュラムを実施する。
- 5) 成績不振学生の指導を充実する。
- 6) 意欲のない学生には、将来の進路を含め適切な指導を行う。
- 7) 入学試験の選抜方法を検討し、学生の質の向上を図る。学士編入学について検討する。

4. 研究の活性化等

- 1) 大学院の入学定員確保を目指す。
- 2) 先端科学研究センターの充実を図る。
- 3) グローバルCOEを平成21年度に獲得するよう努力する。
- 4) 平成20年度より教育・研究費の重点配分を行い、人材育成に努める。
- 5) 科研費等獲得に努力する。協同研究、産学連携を推進する。
- 6) 社会人受け入れを積極的に検討する。

5. 国際交流の促進

姉妹大学協定の締結、留学生の受け入れ、教員・学生の交流を推進し、真の国際交流を目指す。

6. 病院拡充等

- 1) 患者増を図り、外来600名、入院45名以上を平成21年度末までに達成する。
- 2) 学生の診療参加型臨床実習及び歯科医師臨床研修を充実させる。
- 3) 診療の責任体制を確立する。情報公開を行う。
- 4) 近接診療科を開設する。
- 5) 教員、医員数を再検討する。
- 6) クリティカルパスを充実する。

7. 介護老人保健施設、介護老人福祉施設の充実

介護老人保健施設、介護老人福祉施設は、地域の保健・福祉

への貢献とともに、教育・研究の場として活用する。教育・研究・奨学助成のための資金を確保する。デイケア、デイサービスの定員を平成21年度末までに40名に変更する。

8. 老朽化した教育・研究・診療の施設・設備を更新し、実習機材を整備する。

9. 福岡医療短期大学の充実

(1) 歯科衛生学科

- 1) 教育・実習の効率化を図り、平成20年度末までに医科歯科総合病院、介護施設での実習の改善を行う。
- 2) 資格取得支援教育を行う。
- 3) 成績不振学生の指導を充実する。
- 4) 専攻科の指導体制の充実を目指す。

(2) 保健福祉学科

- 1) 平成21年度以降の入学定員を確保する。
- 2) 資格取得支援教育を行う。
- 3) 3年制への改組を検討する。

10. 地域貢献の推進

公開講座、ボランティア活動等を推進する。

11. キャンパス構想

- 1) 学園用地を活用、整備する。
- 2) 干隈用地の活用を検討する。
- 3) 本館、病院棟の耐震、改築を検討する。

12. 教職員の考課制度の確立と処遇の改善等

- 1) 教職員が明るく楽しい職場環境をつくり、人材育成を含めてその職務を全うし、学園の活性化にも寄与することを目指して、考課制度を充実するとともに、処遇（俸給、期末手当、年度末手当）に反映させる。
- 2) 任期制を定着させる。

13. 人材育成

- 1) 教員の能力向上のため、各講座・分野の抄読会、カンファレンス等を充実し、目的意識をもって研究・研修に努める。
- 2) 職員の能力開発・啓発のため、学内研修の充実と学外研修会等への積極的派遣に努める。特に専門職スタッフ、管理職としての必要な知識等の習得の徹底を図る。

14. 学園財政の健全化

- 1) 支出を節約し、資産運用による収入増を図る。
- 2) 管理部門の業務、人員配置の効率化を図る。
- 3) 外部資金（科研費・私学助成金、奨学寄附金等）の導入を積極的に行う。
- 4) 退職金の見直しを平成21年度末までに行う。



福岡歯科大学長に北村憲司教授就任

平成20年12月開催の第410回理事会で、1月31日で任期満了となった本田武司前学長の後任として、北村憲司・分子機能制御学分野教授が、福岡歯科大学の第9代学長に就任することが決定しました。任期は、平成21年2月1日から3年間。北村新学長に抱負を聞きました。

「変革の時代を進む勇気と 才気によって希望を拓く」

このたび、本田武司学長の後を継ぎ、学長のご下命をいただき身に余る光栄でございます。同時に、現在の本学の置かれた状況を考えると、多難な問題の連続に翻弄される3年間になることは間違いなく、身の引き締まる思いであります。現在、歯科医学を取り巻く状況は負のスパイラルに陥っており、本学もその負のスパイラルに巻き込まれています。そこから脱却することが本学にとって最優先の課題であるのは間違いありません。また、本学の慢性的な大学院充足率の低迷に対する対策も必要です。浅学非才の身ではありますが、真摯に課題と向き合い、解決に向け最善を尽くしたいと思っております。

この3年間に課せられた私の使命は本学の中期構想を実現することですが、中でも本学が掲げている「口腔医学」の推進によって、歯科医療の展望を拓き、特色ある大学としての魅力を作り、それらの情報を発信することで、これからの歯科医師・歯科医療の方向を示したいと考えています。一方、この目標を実現するために避けて通れない現実の大きな課題があります。建学の精神である「教養と良識を備えた有能な歯科医師」として社会に貢献するには国家試験に合格することが最低限の条件です。歯科医師国家試験は教育の質を評価する指標の一つとされ、大学にとっても国家試験合格率の上位定着は理念の実現にとって極めて重要なことです。暖かいまなざしと冷静な判断の下、教職員、ご父兄の皆様のご協力を得て、学生諸君の自己実現をお手伝いしたいと思います。

教育と共に研究及び診療は大学活動の根幹を成すものです。研究については、今年度から新たに先端科学研究センターによる戦略研究プロジェクトが開始されました。この大学院を中心とした研究プロジェクトによって、これまで以上に研究の発展が期待されますが、そのためには、中核である大学院学生が充足される必要があります。大学院教育によって問題発見・解決能力を持ち、教育・研究・診療の発展に貢献する人材-Physician Scientists-を育成したいと考えています。本学大学院が目標とする「高度専門職業人」とはまさにそ



略歴

九州大学歯学部卒業、平成6年10月福岡歯科大学歯科薬理学講座（現 細胞分子生物学講座分子機能制御学分野）教授就任。学生部次長、基礎医歯学部門長、情報図書館長、学生部長を経て、平成21年2月1日付福岡歯科大学長に就任。60歳。

うしたPhysician Scientistsであり、医学と歯学の垣根をなくす上でも大きな意味を持っています。大学院卒業生に対する優遇策など充足に向けた改善を図っていきたいと思います。

医科歯科総合病院は昨年、歯科を中心とした病院では全国で2番目に日本医療機能評価機構の認定病院となり、今後も質の高い医療を提供するため、更なる改善を図っています。特に、教育病院としての活動を行うには、医療スタッフの教育者としての指導力、臨床医としての診療能力、研修指導者としての研究能力が求められます。そうしたスタッフの日常活動が教科書では学び得ない学生教育となり、病診連携を行う大学病院の役割を明確に示すものになるのだと思います。「口腔医学」を目指す上でも、卒業生、開業医の先生に対する恒常的な生涯学習の場の提供は医育機関としての義務であり、歯科医療の向上にとっても大きな意義を持っています。地域歯科医師会や同窓会の先生と協力して、歯科医療ニーズ、地域医療ニーズに応える努力を続けていきたいと考えています。

今、私たちは苦難の中で次代の医療者を育成する努力を行っています。しかし、こうした苦難の時代であるからこそ、社会変化に適應した新しい歯科医師養成教育-口腔医学教育-が必要とされるのだと思います。変革を必要とする時代に私たちが生きていることを天啓として、その困難に立ち向かう良き仲間として、本学の未来、歯科医療の未来を、希望を込めて切り拓くために、一人一人の勇気と才気をお貸しいただき、皆様とともに一步一步進んでいきたいと思っております。皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本田前学長が常務理事に



平成20年12月の理事会で、1月末に任期満了となった本田武司前福岡歯科大学長が2月1日付で常務理事に選任されました。

同氏は、平成6年福岡歯科大学教授に就任後、同大附属病院長を経て、平成15年2月から2期6年間にわたって福岡歯科大学長を務められました。

石川病院長が理事に



平成20年12月の理事会で、石川博之福岡歯科大学医科歯科総合病院長が1月1日付で理事に選任されました。

同氏は、北海道大学歯学部卒業、平成12年11月福岡歯科大学教授就任後、平成15年4月同大口腔・歯学部門長、平成19年4月から同大医科歯科総合病院長を務められています。

文部科学省戦略的大学連携支援事業 口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

連携大学学長・学部長及び事業実施担当者による合同会議を開催

1月10日、昭和大学旗の台キャンパス(東京都品川区)1号館5階会議室において「第2回学長・学部長会議」及び「第2回戦略連携事業実施担当者会議」合同会議が開催されました。当日は、①口腔医学カリキュラム作成の取組 ②文科省主催の大学教育改革プログラム合同フォーラム・ポスターセッションへの出展 ③FD・SD研修 ④海外視察 ⑤今後の各会議の開催予定 ⑥21年度補助金申請額等 ⑦TV会議システムの運行等について報告及び協議されました。

また今後、各連携大学が分担して国立大学医学部等、医学会・歯科医学会等へ口腔医学の創設・育成について理解と協力を要請することになりました。

午後には、昭和大学口腔ケアセンター設立記念シンポジウムが行われ、その中でもこの連携事業の取組みが紹介されました。

次回は、9月に岩手医科大学で開催予定。



大学教育改革プログラム合同フォーラムへ参加

1月12日、13日にパシフィコ横浜(横浜市)で、文科省主催、平成20年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」が開催されました。このフォーラムは文科省が行っている「国公立大学を通じた大学教育改革の支援の充実等」各プログラム選定取組みについて、広く社会へ情報提供を行うため開催されたもので、福岡歯科大学が代表校

として選定された戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」について、12日ポスター発表をしました。ポスター発表では、本学が推進する「口腔医学」の確立や取組みに対し、ブースに立ち寄られた来場者の方々と有意義な意見交換をすることができました。



受付をする来場者たち



来場者に対応する本学参加者

「口腔医学」シンポジウム開催

1月22日、福岡県歯科医師会館視聴覚室において、戦略的大学連携支援事業平成20年度FD事業：『口腔医学』シンポジウムが開催されました。

『「口腔医学」-歯科医療の将来像-』というテーマで、田中理事長をモデレータに本田学長、瀬戸院一鶴見大学歯学部特命教授、戸塚靖則北海道大学歯学部教授、鴨下重彦国立国際医療センター名誉総長、中川尚志福岡大学医学部教授のご講演ののち、討論が行われ、当初の予定時間を越えて活発な議論が交わされました。100人に及ぶ歯学・医学の関係者が全国から参加され、口腔医学の推進に有意義なシンポジウムとなりました。



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御



関口センター長

先端科学研究センターの発足

文科省の平成20年～24年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に選定され、支援事業の主体となる先端科学研究センターが理事会（10月21日、11月21日開催）の承認を得て、12月1日付で発足しました。同センターには関口睦夫客員教授、中山宏明客員教授、高木康光准教授が配置され、関口教授がセンター長に任命されました。

福岡歯科大学シンポジウム

『環境とゲノムをつなぐ細胞機能—「環境ゲノム学」への挑戦』を開催

「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究プロジェクトの開始にあたり、標記のシンポジウムが12月18日に福岡歯科大学本館801講義室で開かれました。このシンポジウムには本学の研究者に加え、この分野で活躍する国内外の研究者が招待され、質の高い発表と活発な議論が行われました。

まず先端科学研究センターの関口睦夫教授が本研究プロジェクトの意図することについて述べ、その主題の一つである酸化ストレスとゲノム安定性について概説しました。ついで中国の北京老年医学研究所の蔡剣平教授が老化促進マウスを用いた老化と遺伝子発現の関係について研究結果を発表し、さらに九州大学の

片山勉教授がDNA複製酵素の構造と機能について精緻な解析結果を報告しました。それに引き続いて九州大学の續輝久教授と本学の日高真純准教授が、発がん抑制の機構についてそれぞれ個体レベルと分子レベルの研究結果を報告しました。最後にアメリカのルイジアナ州立大学の岩熊智雄助教授が、ストレス制御において中心的な役割を果たすp53タンパク質の働きについて最新の研究成果を述べました。これらの講演に対し活発な討論が繰り広げられたのが印象的でした。



福岡医療短期大学

文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

「介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」開講

福岡医療短期大学が申請した『介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上支援をスキルアップする実践教育』が、文科省の“社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム”に採択されました。これにより歯科衛生士を対象に、“口腔介護と口腔機能向上支援”を学ぶスキルアップ講座を開講します。

この講座は口腔介護と口腔機能向上支援を学ぶ教育プログラムを、学内外の講師陣による専門性を活かしたオムニバス講義・演習（受講者相互での実習）と、介護保険施設での臨地実習により実施します。

平成21年5月に第1期が開講され、本プログラム修了者には修了証を交付し短期大学の4

単位を認定するほか、地域の歯科医師会や歯科衛生士会、行政機関、介護保険施設との連携を通じて、“口腔介護と口腔機能向上支援”による介護予防の普及を目指します。

学習プログラムの概要

教育項目	授業形態	時間数	単位数
A.口腔介護の知識と技術	講義・演習	27時間	2単位
B.日常生活介護の知識と技術	講義・演習	18時間	1単位
C.介護施設実習	介護施設で 臨地実習	32時間	1単位

詳細についてのお問合せは、福岡医療短大事務課（TEL.092-801-0439）まで。

*対象：歯科衛生士有資格者（離職中の方も対象となります。）

*定員：約40名

*受講料：無料

*期間：第1期 平成21年5月より

（原則として隔週日曜日の午前10時～午後4時）

第2期 平成22年5月より（開講予定）

*修了者には修了証を交付し短期大学の4単位を認定

*後援：福岡県歯科医師会・福岡県歯科衛生士会

第4回「健康まるごと福岡歯科学園」開催

10月25日、26日の2日間、今年で4回目になる「健康まるごと福岡歯科学園」が開催され、2000人を超える来場者で賑わいました。

学園祭「田の歯科祭」

学生が企画したステージイベントは、地域の子供たちの大人顔負けのダンスや太鼓演奏、次郎丸中学校吹奏楽部による演奏の他、ブラック・マヨネーズのお笑いライブなど盛りだくさんの内容でした。



クラブ対抗カラオケ大会優勝チーム

医科ミニ講座

内科・外科・心療内科・耳鼻咽喉科の各先生による身近なテーマで20分の講義を行いました。



介護施設見学・介護無料相談

入所者の作品展示や施設内見学、さらに介護についての相談にも対応させていただきました。



短大企画「ご用心!お口と介護」

歯科衛生学科は、口腔内ケアの大切さをアピールするイベントを行いました。また、保健福祉学科は、障がい者や高齢者への理解を深めてもらおうと、25日には盲導犬が来場し、高齢者体験や盲導犬コーナーを設置しました。



歯の無料相談

お子さんを中心にご家族で口腔内の相談に多くの方にお越しいただきました。



からだの科学展

骨や歯の模型を並べたり、指の模型を作ったり、顕微鏡を覗いたり、楽しく体の不思議を体験しました。



3大学合同シンポジウム開催

10月26日、本学において「地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム」、テーマ『生涯現役!ハッピーライフの食と健康』が開催されました。このシンポジウムは、地下鉄七隈線沿線の福岡大学、中村学園大学、本学が医学・食(栄養)・口腔とそれぞれの特徴を活かしながら、地域の方々の健康増進の一助になるようにと平成17年度から始まり、今年で4回目となりました。今回も多く参加者で、会場内は熱気あふれるシンポジウムとなりました。



参加者の質問に答える講師たち(第2部討論)

第35回福岡歯科大学学会総会

12月14日、福岡県歯科医師会館において第35回福岡歯科大学学会総会(会長:松浦正朗口腔インプラント学分野教授)が開催され、学内外から295人が参加し、シンポジウム「一般歯科治療における矯正歯科治療の役割」や一般口演、ポスター展示が行われました。なお、学会奨励賞には、歯科保存学分野福岡島絵助教と大学院1年根本哲臣氏(有床義歯学分野)が選ばれました。



献体者慰霊祭

第33回献体者慰霊祭が10月16日、普賢山萬行寺(博多区祇園町)で、1405霊位(うち新祭祀献体者数は35霊位)に対し、執り行われました。当日は、ご遺族、施設関係者をはじめ福岡歯科大学学生及び学内外の関係者338人が参列し、厳かに献体者の尊い御霊のご冥福を祈りました。

実験動物慰霊祭

10月1日、第33回実験動物慰霊祭が体育館1階卓球場において執り行われました。日頃アニマルセンターを利用して実験等に携わる関係者が多数出席し、実験動物の諸霊に感謝し、霊を慰めました。

FD研修会報告

■第6回FDワークショップ

「生きたシラバスを作ろう」(11月29日開催)

今回で6回目となるこのワークショップは、教授方法や指導方法の改善向上を通じて魅力ある授業を目指しています。シラバス作成に関して、ニーズの解析、教育目標の設定、教育方略、教育評価の方法を各テーマに沿ってそれぞれ講義とグループ討論、さらに全体討論により、シラバスの練り直しを重ねるトレーニングが行われました。

■「助言教員の資質向上を図るためのワークショップ」(12月4日開催)

助言教員となってまだ日が浅い教員11人を対象に、ワークショップが開催されました。福岡教育大学保健管理センター所長、宮田正和教授(産業医)による『学生のメンタルヘルスの現状と対策』と題する基調講演のち、2班に分かれて討論が行われました。最後の全体討論で、宮田教授は「学生支援は教員個人ではなくチーム連携で学生の支援を行えるような体制を作り、対応に当たることが望ましい」と総括されました。



班別の討論結果を聞く参加者

新任准教授紹介

いしばし かずなり

石橋 一成 准教授

機能生物化学講座・生化学分野



略歴

九州大学理学部生物学科卒。福岡歯科大学助手、講師(口腔生化学講座)を経て、平成20年10月1日付准教授に就任。博士(歯学)。福岡県出身。

抱負

学生に口腔医として生涯役に立つ基礎知識を身につけてもらう。その為に、単に単位を取るためだけの勉強の仕方を改めるように指導する。学問の広さ、深さを知り、その上でゆとりを持って学ぶ習慣を修得してもらう。

福岡医療短期大学、東釜山大学訪問

9月25日～27日まで、歯科衛生学科第3学年76人は日高三郎教授、井田高之准教授と堀部晴美准教授の引率により姉妹校の東釜山大学歯衛生科(韓国・釜山市)を訪問しました。東釜山大学では、施設見学のほか、交流会が催され、6月に本学を訪問した学生を含む全学生に歌やダンスで歓迎され、本学学生も歌で応じて、同じステージで一緒に踊ったり歌ったりと楽しく交流することができました。



歓迎会で歌を披露する短大学生

【福岡歯科大学】

海外研修派遣

所属分野	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
総合歯科学	講師	内藤 徹	第16回コ克蘭・コロキウムでの発表およびOral Health Group会議出席のため	フライブルグ(ドイツ)	自:H.20.10.1 至:H.20.10.9
障害者歯科学 総合歯科学 口腔外科学 冠橋義歯学	教授 准教授 講師 助教	小島 寛 米田 雅裕 泉 喜和子 片 淵 三千綱	University of British Columbia Faculty of Dentistry(バンクーバー)及びUniversity of the Pacific(サンフランシスコ)への臨床実習室の視察及び臨床実習に関する協議のため	バンクーバー(カナダ) サンフランシスコ(アメリカ)	自:H.20.10.6 至:H.20.10.11
口腔インプラント学	教授	松浦 正朗	第14回北京大学口腔医学院学術会議及び北京大学口腔医学院の新病院落成記念式典に出席のため	北京(中国)	自:H.20.10.8 至:H.20.10.12
学術フロンティア 研究センター	客員教授	関口 睦夫	1.中国衛生部北京医院で研究の協議と指導、清華大学と北京大学で研究交流のため 2.復旦大学(上海)で研究交流のため	北京・上海(中国)	自:H.20.10.12 至:H.20.10.18
口腔インプラント学	教授	松浦 正朗	第7回汎太平洋インプラント学会年次総会への出席と講演のため	済州島(韓国)	自:H.20.10.31 至:H.20.11.3
内科学	講師	徳本 正憲	第41回アメリカ腎臓病学会にて発表のため	フィラデルフィア(アメリカ)	自:H.20.11.5 至:H.20.11.11
冠橋義歯学 口腔インプラント学	教授 准教授	佐藤 博信 城戸 寛史	インド補綴学会において招待講演を行うため	バンガロール(インド)	自:H.20.11.5 至:H.20.11.10
歯科矯正学	教授 講師	石川 博之 玉置 幸雄	第2回日韓矯正歯科学会ジョイントミーティングで日韓交流打合せ及び演者として演題発表のため	ソウル(韓国)	自:H.20.11.6 至:H.20.11.9
有床義歯学	助教	津江 文武	1.John Beumer教授(University of California, Los Angeles歯学部)と研究打ち合わせのため 2.University of California, Los Angeles歯学部の顎顔面補綴専門施設における顎顔面補綴治療臨床システムおよび施設の見学	ロサンゼルス(アメリカ)	自:H.20.11.17 至:H.20.11.23
冠橋義歯学 口腔インプラント学 口腔インプラント学	教授 講師 講師	佐藤 博信 松浦 正朗 山本 朗己	上海交通大学付属病院上海第九人民病院での講義及び、浙江大學第一病院でのセミナー参加のため	杭州(中国)	自:H.20.11.20 至:H.20.11.24
総合歯科学	教授 助教	廣藤 卓雄 谷口 奈央	第10回日韓歯科保存学会にて発表のため	ソウル(韓国)	自:H.20.11.27 至:H.20.11.29
有床義歯学	教授	高橋 裕	1.香港大学歯学部(香港)にてFRC開発に関する研究打ち合わせ並びに“Investigation of dental statuses as risk factors for malnutrition in geriatric patients”に関する研究プロジェクト打ち合わせ 2.Fook Tin Plastic Fty社(深圳)を訪問し、FRC開発に関する打ち合わせ	香港 深圳(中国)	自:H.20.11.26 至:H.20.11.30
口腔腫瘍学	教授	大関 悟	1.ミャンマー連邦国における医療援助・技術指導及び学術調査のため 2.ヤンゴン歯科大学と福岡歯科大学との姉妹校提携に関する打ち合わせ会議のため	ヤンゴン マンダレー(ミャンマー連邦国)	自:H.20.12.15 至:H.20.12.30

From The Alumni Association

同窓会だより

福岡歯科大学同窓会中国ブロック学術講演会



平成20年10月12日、ホテルグランヴィア広島において、福岡歯科大学同窓会中国ブロック学術講演会を開催いたしました。参加者は中国5県より31人、同窓会本部より2人で、「福岡歯科学園の現状と口腔医学の推進」というテーマで本学学長本田武司先生に講演していただきました。

勉強不足のため「口腔医学」という言葉を

知らなかった私ですが、今回の講演において、歯科治療とは歯牙および歯牙周囲組織のみではなく、すべての口腔領域、または全身をひとつの単位とした中での歯科治療の必要性というものを再認識させていただきました。もう一つの演題である「福岡

歯科学園の現状」の内容を聞き、約20年前の私の学生時代には考えもつかなかった病院施設、いまにして思えば、かなりルーズだった我々学生達の授業に対する姿勢の改善、歯科大学全般にわたる国家試験合格率の低下等、時の流れの中にある歯学教育の変遷をうかがい知ることもでき、興味深く感じました。短い時間での講演でしたが、暗いと言

われ続けている日本の歯科界の発展に大いなる期待を持つことができたこととともに、福岡歯科大学と現在も勉強に励んでいる後輩諸君にエールを送りたいと思いました。

講演会終了後は出席者の皆さんと、本田先生を囲んで、懇親会を行いました。各テーブルでは、思い出話に花が咲き、私も学生時代にお世話になった先輩方とお会いすることができ、非常に楽しい時間をすごすことができました。

最後になりましたが、今回の講演会、懇親会の開催にあたり、広島県支部の先生方には大変ご尽力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

岡山県支部 大橋 義文(13期)

同窓会通信 「同窓会発足30周年記念行事に向けて」

同窓生の皆様には、日々ご活躍のことと存じます。また日ごろより同窓会の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

同窓生も3500人を超え、今年春には31期生が卒業予定です。今年と同窓会発足30周年を迎えることとなりますが、この節目を祝い更なる発展を目指すための記念行事を企画しております。1年ほど前から準備に入り、現在準備委員会にて準備を進めております。

記念講演会は、全国的に有名な地方活

性化の旗頭として活躍されている宮崎県の東原知事を講師としてお招きし、ご講演を頂く予定となっております。どのようなお話になるのか、今から楽しみにしているところです。

近年、厳しい話ばかりが飛び交い、歯科業界全体として低迷が叫ばれ、また大学も少子化・改革など乗り越えなくてはならない課題が山積しております。このような時期だからこそ、同窓会としての役割があるのではないかと考えております。

常務理事 廣瀬 武尚(4期)

開催日は平成21年7月25日(土曜日)、場所は福岡市博多区キャナルシティ内のグランドハイアット福岡です。是非今年の予定に組み入れて頂きたいと思います。詳細につきましては、後日ご連絡いたしますが、同窓生の方々にはお誘い合わせの上、多数ご参加頂きますようお願い申し上げます。

卒業生トーク

「毎日充実しています」

茂山 千英子(26期)



歯科保存学分野研究室で

卒業後、九州歯科大学保健医療フロンティア科学分野(旧予防歯科)の大学院へ進学しました。大学院修了後、ご縁があって昨年4月から母校である福岡歯科大学の歯科保存学分野(助教)に在籍しています。

5年ぶりの母校ですが、学生時代にお世話になった先生方や、助教や医局員として在籍し活躍している同級生も多く、すぐになじむことができ充実した毎日を送っています。

大学では診療のほかに、研究、教育に携わっています。研究に関しては、私がこれまで行ってきた唾液中に検出されるストレス性内分泌ホルモンに関する研究を歯内療法学へ応用することができないかと考え、根尖性歯周炎の従来の細菌学的アプローチとは違う側面からの新しい評価方法の開発をテーマに、自分なりに研究計画を進めて

います。教育に関しては、臨床実習生の指導や学生さんの講義や実習のライターなどをしてしています。間違ったことや曖昧な情報を教えるわけにはいかないので、私自身も予習復習をする必要があり、とても勉強になっています。また、質問に来た学生さんと議論したり一緒に考えたりすることは、私にとっても良い刺激になります。

大学という環境には、尊敬する先生や切磋琢磨しあえる仲間、また新しい技術や情報など、いろいろな“つながり”があります。福歯大に戻ってきてまだ日も浅い私ですが、いろいろなつながりを大事にして日々精進していきたいと思っています。



日本歯科保存学会(平成20年11月6日・7日、富山市)にて、右から2人目、筆者

亡き父への感謝、感謝、感謝、感謝！



みなさん、こんにちは。18期の劉文憲と申します。平成19年4月に出身地の福岡県久留米市の西鉄花畑駅前に開業致しました。

卒業後は久留米大学医学部口腔外科学大学院で亀山忠光教授のもと大学院に進み、基礎研究では分子生命科学研究所(目加田英輔教授)で細胞膜タンパクであるCD9/CD63キメラ遺伝子を分子レベルで研究しました。また、6ヶ月の麻酔科研修、3ヶ月の救命救急センター研修を終え、口腔外科専門医も取得し、医学部での口腔外科として貴重な経験が出来ました。

大学院卒業後は、母校である福岡歯科大学に戻りたいと考えていましたが、久留米大学で臨床を学ぶうちに歯科臨床医としての方向性が見え、また、父からの開業の勧めもあり、開業することになりました。ガラス張りの医院は30年後も斬新なデザインで使えるように、建築家の葉祥栄氏に依頼しました。全個室で、患者様どうしが顔をあわせることなく、ゆったりとくつろげるように広い間取りにしました。

開業当初は患者様も少なく、看板も出さずに1年が過ぎましたが、さすがに父に看板は必要だと言われ、平成20年6月に駅前通りと自院に看板を掲げ、ホームページも製作しました。平成20年5月からは保育士の妻が、水曜日と金曜日2階の託児室で託児を行い、母親を診察しております。こちらの利用も最近では増えてきており、育児中の母親の受診要望がこんなにもあるのだと実感させられました。

開業に際して、いろいろと世話になった父が平成20年7月2日急死しました。本当に亡き父には感謝してもしきれないくらいです。今後も亡き父の意向を継いで、りゅう歯科医院を利用される顧客の患者様の要望に応えられるように、日々研鑽を積んで参りたいと思います。

E-mail: ryu-dent@mx81.tiki.ne.jp

URL: http://www.ryu-dental.jp/

りゅう歯科医院(福岡県久留米市)

劉 文憲(18期) = 文

写真上=医院外観

写真下=筆者を中心に左側に保育士の妻と長女、右側にスタッフ



ご安全に



「ご安全に」これは製造業等の現場で用いられる言葉です。我々の「お大事に」と同じような響きですが、より広範囲に使われます。工場内での挨拶や訓示から、終業後の親睦会や忘年会等での挨拶まで様々なところで耳にします。

私は、現在三菱重工工業株式会社高砂製作所の健康管理センターに勤めております。高砂製作所は日本有数の大型回転機械専門工場の一つです。敷地面積は甲子園球場約28個分あります。ここでは関連会社・協力会社を含め約4500人が働いています。主な製品は原子力・火力発電所の発電用タービンです。特にコンバインドサイクル発電用タービンは世界最高水準の熱効率を誇り、世界中に販路を持つ主力商品となっております。また高砂研究所では最先端の研究開発を行っております。

当社では私を含め新入社員は、入社初日に数日間入社時講習を受けることになっております。ここで三菱重工の歴史、スリーダイヤモンドの書き方、社是、社歌、所歌だけでなく、この「ご安全に」という言葉も習います。この言葉を合い言葉に、安全第一を基本に仕事を行います。全員無事故での業務完遂はととても困難なものです。

労働安全衛生法での歯科医師の業務は限られ、産業医と異なり産業歯科医師という言葉さえありません。私の主たる業務は歯科診療と労働衛生教育で、産業衛生面での担当は多くありませんが、地球の裏まで活躍する我が社の社員だけでなく、世界中から高製にお見えになる技術者の方々の健康管理に少しでも貢献できればと思います。日々業務に当たっております。社員の方々が健康に“ご安全に”仕事ができること、これが我々健康管理センターの目的であり最大の責務なのです。

三菱重工工業高砂製作所健康管理センター(兵庫県高砂市)

橋詰 和英(22期) = 文

写真上=正門ゲートすぐのタービン建屋

写真下=健康管理センター診断診療部門スタッフと一緒に(左から4人目が筆者)



保護者からのメッセージ FROM PARENTS



大澤 有次 = 文

もっと楽な国家試験に

私が福岡歯科大学を卒業して、早26年になります。当時は田んぼの中に、ポツンと大学が目立っていました。長女が入学して、父兄後援会四国地区の会長を任せられ、久しぶりに大学を訪れました。西新からタクシーで大学に向かったのですが、何処を通っているのかまったく判らず、大学の近くになってもまったく見えてこない。何処からでも見えていたのにすごい都会になったものです。田んぼの真ん中のグラウンドで野球のボールを追っていた当時の面影は、まったくありませんでした。迷子になりそう!

変わったといえば、国家試験の難しさも我々の頃とは比較にならない程のものになっているそうです。全国の平均合格率が90%以上であったものが、ここ数年は70%を切る勢いで合格率が低下しています。歯科医の過剰供給によるものです。長女が大学に入るまでまったく

知りませんでした。他人事?だったのです。今、現実を知って愕然としています。今までの日本歯科医師会及び国の無策、無責任が今の学生に重くのしかかっています。誰も責任を取らないままに!しかし、それを責めていても何も解決はしません。子供達には、学生生活を十分楽しむと共に、全身全霊をかけて勉強して必ず国家試験に合格していただきたい。そのためにも大学と父兄の連携を密にし、他の大学に負けることなく、一人でも多くの歯科医師を輩出していただきたいと思います。学生の間は、国家試験合格が第一の目標ですが、その後には、歯科医師としてもっと厳しい現実が待っています。それにも負けない精神力と知識を今のうちに十分身につけるよう、学生生活を送っていただくことを切に願います。



大久保 和之 = 文

頑張り

長男が福岡歯科大学の最終学年になった。ついこの間入学した感があるが、月日の経つ早さを痛感する。高3の12月までバスケットボールに熱中していた息子が、歯科医になって後を継ぎたいと言った時は正直驚いた。子は親の背を見て育ち、親の生き方を体感するらしいが、親子二代で同じ大学にお世話になるとは思ってもみなかった。

日曜日に時々セミナー参加の為、大学に行くことがある。その行程で車窓より見られる歯科医院の多さに目を見張る。その数がコンビニの1.6倍あると何かの雑誌に書かれていたが、それが事実であることを実感する。又、看板に掲示された診療時間の長さは、現在の歯科医の置かれた立場を如実に表している。政府は産科医と小児科医に保険制度上、手厚い保護をするそう。一方、歯科医には国家試験の合格者を減らして対処するよう

だ。あ〜、今日日の歯科大生は大変だ。顧みて国家試験合格率90%以上で春と秋2回受験できた私の学生時代とは隔世の感がある。

大学に着くと、日曜なのに多くの学生が自習室で一途に勉強している光景に出会う。学生の時余り勉強しなかった私はいつもその姿に感動して、心の中で「頑張りよ」とエールを送りながらそばを通り過ぎていく。学生の皆さんは素晴らしい環境に恵まれ、学生を思い育ててくださる教職員の方々がいらっしゃるこの福岡歯科大学で、常に学ぶ姿勢を身につけ将来に向かって大きく飛躍する為の確かな基礎を築いて欲しい。そして私が目指したDentistではなくStomatologist(口腔科医)となる事を切に願っている。

最後に、同窓生の一人として福岡歯科大学の未来に向けての更なる発展と飛躍を祈念してやまない。

平成21年度学友会総務委員長決定

任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が1月19日に行われ、第4学年毛利收孝さんが総投票数485票中430票(89%)の信任票を獲得し、4月1日付で平成21年度学友会総務委員長に就任することが決定しました。



保健福祉学科、実習決意式

12月3日、初めての学外施設実習を行う福岡医療短期大学保健福祉学科第1学年24人の決意式が、短大・305教室で行われました。田中理事長、栢短大学長の激励の後、代表の藤雪絵さんが実習に対する誓いの言葉を力強く述べました。

歯科衛生学科、卒業研究発表会

11月14日、福岡医療短期大学歯科衛生学科第3学年の卒業研究発表会が短大・304教室で行われました。学生は12のグループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って実験・調査し、グループ毎に工夫した発表を行いました。



研究の成果を発表する学生



誓いの言葉を述べる藤さん

平成21年度入学試験日程

福岡歯科大学 歯学部			福岡歯科大学大学院 歯学研究科
区分	センター試験利用入試	一般入試B日程	二次募集
募集人員	約10名	約10名	18名(定員)
出願受付期間	H21.1.19(月)~2.12(木)	H21.2.10(火)~3.5(木)	H21.1.26(月)~2.13(金)
試験日	2月14日(土)	3月10日(火)	2月19日(木)
合格発表日	2月18日(水)	3月12日(木)	3月5日(木)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp		

福岡医療短期大学・歯科衛生学科			
区分	一般入試B日程	一般入試C日程	AO入試
募集人員	約5名	若干名	約40名
出願受付期間	H21.2.2(月)~2.18(水)	H21.3.2(月)~3.9(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	2月20日(金)	3月12日(木)	
合格発表日	2月27日(金)	3月16日(月)	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 歯科衛生学科入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/Hyg ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/Hyg E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp		

福岡医療短期大学・保健福祉学科				
区分	一般入試B日程	一般入試C日程	一般入試D日程	AO入試
募集人員	若干名	若干名	若干名	約15名
出願受付期間	H21.2.2(月)~2.18(水)	H21.3.2(月)~3.9(月)	H21.3.16(月)~3.23(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	2月20日(金)	3月12日(木)	3月25日(木)	
合格発表日	2月27日(金)	3月16日(月)	3月27日(金)	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 保健福祉学科入試係 TEL.092-801-0923(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/Wel ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/Wel E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp			

※保健福祉学科は、平成21年度入試から入学定員(募集人員)を変更しました。

受験生並びに保護者の皆様へ

○福岡歯科大学の特長と魅力

本学は、開学以来35年を経て、3500余名の卒業生を輩出し、現在、全国でも有数の歯科医学教育・研究の場として成長してきた西日本唯一の私立歯科大学です。

本学の教育目標は、「教養・良識および国際感覚を備えた優秀な歯科医師を育成し、社会福祉に貢献するとともに、歯科医学の進展に寄与すること」にあり、独自の6年間一貫教育システムを導入し、教養科目、基礎科目、臨床科目および臨床実習が段階的に学べるようカリキュラムを編成しています。また、クラブ活動や国際交流も盛んです。その他、学生の勉学や生活上の問題に対し、助言教員を配し、きめ細かく対応しています。

臨床実習の場である大学附属の医科歯科総合病院には、歯科だけでなく内科(内科、外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、形成外科、心療内科)診療科も配置されています。さらに同一キャンパス内には、2つの介護施設があり、教育実習も行われます。

近年、治療の対象を歯のみに限定せず、口腔(こうくう)機能や全身状態並びに患者さんの気持ちを十分理解して医療を行うことが必要となっています。このようなことから、一般医科の基礎的知識を持ち、医師と緊密に連携できる医療人の育成を目指しています。このために、本学は「歯科医学」から、口腔を一つの臓器とみなし、その機能全体を向上させる「口腔医学」への脱皮を目指し、各方面に向けて発信しています。

○福岡医療短期大学の特長と魅力

歯科衛生学科(歯科衛生士を養成)と保健福祉学科(介護福祉士を養成)の二学科から構成され、それぞれの分野のリーダーとなる人材の育成を目指しています。とくに、高齢者の誤嚥性肺炎予防に有効な、口腔ケア(口腔内を清潔に保つケア)ができる人材の育成を目標にしています。

特待生・特別奨学生決定

福岡歯科大学特待生

平成20年度の第1学年特待生に榊島美世さんが選ばれ、12月5日、学長室において表彰式が執り行われました。この特待生は、学業成績が特に優秀であり、品行方正かつ健康であることを加味決定され、その年度の学生納付金の一部が免除されます。



福岡医療短期大学特別奨学生

平成20年度第1学年特別奨学生に次の5人が選ばれ、10月30日、本館第1会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、その年度の学生納付金の一部(年間授業料の5割を上限)が免除されます。

歯科衛生学科

保健福祉学科



富 レイラ



城山 綾乃



藤 雪絵



永岡 秀子



河野 智子

歯科衛生学科の特長

- 昭和56年に福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校として開校し、28年余の歴史があります。
- キャンパス内の福岡歯科大学医科歯科総合病院及び2つの介護施設で臨床実習を行います。
- 2年次にホームヘルパー2級の資格を取得できます。
- 卒業後、本学科の専攻科(1年制)を修了して論文審査に合格すれば、4年制大学卒業と同等の学士を取得することができます(本邦初)。
- 学生の勉学や生活上の問題に対し助言教員を配し、きめ細かく対応しています。
- 求人倍率は約3.5倍で就職率は100%。

保健福祉学科の特長

- 平成9年4月開学以来、介護福祉士養成に約12年の実績があります。
- キャンパス内の2つの介護施設で実習教育・ボランティア活動・就職が可能でです。
- 介護福祉士・国家試験が免除されています(平成21および22年度入学者まで)。
- 社会福祉主事任用資格とレクリエーション・インストラクター資格も取得可能です。
- 卒業後、4年制大学(福祉系学科)3学年への編入が可能です。(代表例:西南学院大学・人間科学部・社会福祉学科。平成21年度から指定枠が1人増員され3人となりました。)
- 要介護高齢者の最も多い死亡原因である誤嚥性肺炎を予防するために有効な「口腔ケア」技術を、歯科医師・歯科衛生士の教員により教育指導しています。
- 学生の勉学や生活上の問題解決のため、助言教員制度と学年担任制度の両面から、きめ細かく対応しています。
- 卒業後のキャリアサポート体制も充実しており、就職率は100%。